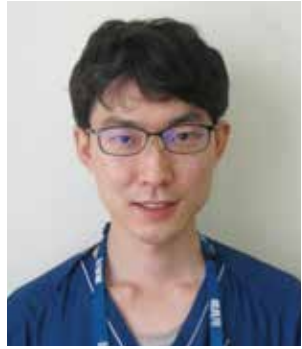




金谷 実華 MIKA KANATANI

2020年4月から兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました。金谷実華と申します。出身は兵庫県神戸市で、徳島大学を卒業した後に尼崎医療生協病院にて初期研修を修了しました。一つの臓器に関わらず広い分野でアプローチをしたいということと、急性期から退院後の生活、そして社会復帰にも関わりたいという理由でリハビリテーション科を志望しました。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



斎藤 卓仁 TAKUTO SAITO

2020年4月から兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました。斎藤卓仁と申します。京都出身で兵庫医科大学を卒業後、初期研修の2年間で京都府立医科大学で過ごしました。脳神経領域に興味があり、研修医時代は神経内科と迷った時期もあったのですが、医局のアットホームな雰囲気に惹かれてリハビリテーション科を選びました。まだ業務に慣れることに精一杯ですが、頑張っただけでいいと思いますので、今後ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



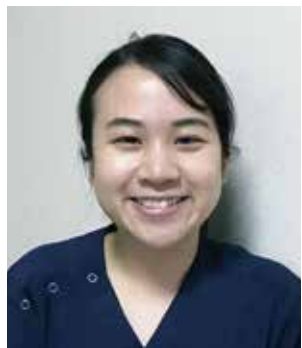
中川 はるか HARUKA NAKAGAWA

2020年4月から兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました。中川はるかです。兵庫医大を卒業し、初期研修も兵庫医大でさせていただきました。学生の頃よりリハビリに興味があり、患者さんの疾患だけでなく生活までを支えたいと思い入局させていただきました。まだまだ知識も経験も少なく、ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



兵谷 真司 SHINJI HYOTANI

皆様はじめまして。今年度より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました。兵谷真司と申します。退院後の生活を含めたサポートに興味があり、リハビリテーション科を志望いたしました。日々の診療では、疾患以外に生理学、社会学、物理学、心理学など多岐に渡って学ぶことが多く、リハビリ科の幅広さに改めて驚いております。一步一步精進してまいりたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



松島 聡子 SATOKO MATSUSHIMA

2020年4月より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました。松島聡子です。より多くの患者さんが豊かな生活、人生を送る支援できることに魅力を感じ、リハビリテーション科を志望しました。リハビリテーション科医として日々勉強し、吸収していきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

CRASEED NEWS



No.44・45

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第44・45合併号(2020年8月19日発行)
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL:06-6857-9640 http://craseed.org

2019年度CRASEEDセミナー報告

病前のヒストリーから生活を知り、 全体像を掴むのがリハビリテーションの鍵

道免和久教授が伝授する「脳卒中リハビリテーションの達人になるために」

2020年1月26日に、兵庫医科大学リハビリテーション医学主任教授 兼NPO法人CRASEED代表の道免和久先生による、「脳卒中リハビリテーションの達人になるために」が兵庫医科大学で開催されました。

講義は、先生がリハビリテーション科医になろうと思ったきっかけとなった、研修医時代の患者さんとのエピソードから始まりました。今では当たり前となっている早期離床の概念がなかった時代、病気だけをみるのではなく、全体として何が大切かをよく考えて、「adding years to life」ではなく、「adding life to years」を目指すリハビリ医学に進まれたとのお話が印象的でした。

続いてリハビリテーション医学の基本の話として、まずは動作の重心のかかり方をわかりやすい図を用いて説明され、この目に見えない重心を意識したリハビリテーションアプローチが大切であることを再認識しました。また、リハビリテーションの効果をみるためには、客観的な評価と障害を数値化することが大切であること、そのためには信頼できる評価法が必要であり、臨床だけではなく研究の重要性も話されました。これまで道免先生が関わられた評価法の研究として、SIASの開発、FIMの翻訳と日本への導入の紹介などがあり、そこから応用して西宮協立脳神経外科病院の小山先生がなされたFIMと機能予後の関係なども挙げられました。続けて脳卒中リハビリテーションでの臨床場面でよく使用される重要な評価法についても説明がありました。これらの評価法を用いて実際の臨床診療を行うわけですが、診察を進めるにあたって留意すべきこととして、すぐ麻痺をみるのではない、と

高次脳機能についての講義は、一般に煩雑で難しいイメージがありますが、分かりやすいシエマを用いて説明してくださるため、非常に理解しやすく、記憶

にも残ります。また、簡便に高次脳機能を評価する方法なども教えてください。臨床場面ですぐに活用できる有意義な内容でした。運動学習のメカニズムについては、「教師なし学習」「強化学習」「教師あり学習」と3つの学習則に分け、それぞれについて研究の歴史から解説されました。運動学習理論の臨床への応用については「学習によって機能が改善した麻痺手を主体的にADLで使うよう行動する」Transfer packageを用いたCI療法、またそこから進化した経頭蓋直流電流療法(tDCS)と末梢神経筋電刺激療法(PNMES)との組み合わせ、その効果の違いのお話、小児症例に対する反復CI療法のお話をされました。さらにCI療法を麻痺側上肢だけではなく、慢性期失語症に応用したCIAT(Constraint-induced aphasia therapy)も紹介されました。最新の治療としてはロボットとリハビリテーションを組み合わせた治療の例をいくつも挙げられ、ロボットを用いたニューロリハビリテーションが当たり前の時代はもうすぐそこであることが実感されました。

講義の最後は障害受容に関するお話で、世界的に有名な俳優マイケル・フォックスの言葉がリハビリに置き換えた解釈として紹介されました。「治らない障害を受け入れる平静さと、改善できることに挑戦する勇気と、その区別が分かる知恵をお与えください。」この文章に対して先生はこう締めくくられました。「この祈りに寄り添い、知恵を与えられる専門家は、リハビリテーション関連職とリハビリテーション科医師のみである。」この言葉をしっかりと受け止め、今後より良いリハビリテーション医療を患者様に提供していけるよう日々努力していこうと決意した一日でした。



というお話もまた印象的でした。まずは患者さんの病前のヒストリー、どういう姿勢で歩き、どういう生活をしてきたか、その患者さんの全体像をつかむ。その次に大まかな高次脳機能評価、そして身体機能の評価に進む、という内容は、私自身以前から指導されていたにも関わらず、ハッとさせられるお話でした。

淀川キリスト教病院 古河 慶子 先生

ADLを数値化したFIM評価は、QOLを向上させるための重要なプロセス

西日本公式第20回ADL評価法FIM講習会

2020年1月25日、兵庫医科大学の平成記念会館で行われた西日本公式第20回ADL評価法FIM講習会に、スタッフとして参加させていただきました。裏方としては参加者の規模に翻弄されつつも、日頃からお世話になっている療法士の先生方の講義を聴くことができ、内容についてもしっかり学ぶことができました。

「活動」を扱うリハビリテーション分野において、ADL評価法、中でもFIMは基本中の基本とも言える評価法ですが、リハビリテーション科医として働き始めて10か月、改めて講義を耳にすると、色々と細かいところが抜け落ちていたことに気づかされ、大変勉強になりました。またFIM講習会には、別途意見交換会という場も用意されており、臨床現場における疑問を拾い上げる仕組みができていたことも知りました。

話は変わりますが、私はリハビリテーション科医になる前は、様々な会社の経営に関わる仕事をしておりました。会社というのは営利組織であるため、売上や利益を上げることが一つの目標にはなるのですが、

そのマネジメント方法は会社によって様々です。極端な例では、上司が売上ノルマの達成率だけを見ており、うまくいかない時はもっと売上を上げると部下をどやしつけて終わるといった場合もあります。これがもう少しできる上司だと、部下の売上だけでなく、そこに至る具体的な行動を確認し、改善点を特定して解決策を導き出します。

ただ、組織が大きくなると個々人の行動を詳細に把握するのは難しくなるため、例えば重要顧客への訪問件数や、サービス利用者のリピート率など、売上という結果にダイレクトに繋がるであろうプロセスを数値化して管理することになります。これを経営の用語で、KPI(key performance indicator)と言います。KPIは事業形態によって様々ですが、いわば社員に対して、このプロセスを重視するというメッセージにもなるため、どんな指標をKPIとして設定するかが事業の行く末を左右する場合もあります。

話をリハビリテーションに戻しますと、リハビリテーション医学が最終的に目標としている「患者さんのQOL向上」を達成する上で、ADLは非常に重要な要素であり、このADLを数値化したFIMは、いわばリハビリテーションにおけるKPIの一つと言えるのではないのでしょうか。

ただ、社内のみの管理指標である会社のKPIと違って、ADL評価法であるFIMは、患者さんも含めた全リハビリテーション関係者に影響を与える指標になります。ここにどのような項目を含んで、それらをどのように評価するのかが、信頼性や妥当性等も含めて、大変重要かつ難しい判断であったであろうことが想像されました。先人の先生方の多大なる尽力に感謝しつつ、日々の診療で患者さんのQOL向上に少しでも貢献していこうと思い新たに一日になりました。

洛西シミズ病院 橋本 泰成 先生



新型コロナウイルス感染症

対応の現状

リハビリテーション診療はその特性上、患者との密接な接触が必要なため、潜在的にCOVID-19患者と濃厚接触し、ウイルスに暴露されている危険性が高いと考えられます。特に急性期では人工呼吸器管理や肺炎、嚥下障害などの感染リスクの高い患者さんを扱うことが多く、呼吸や咳嗽時の喀痰等に含まれる大量のエアロゾルに接触する機会が多いため、通常の診療においても適切な感染対策が重要です。

当院においても、リハビリテーション関連各学会の指針やガイドライン等に基づき、感染制御部と綿密なコンタクトを取りながら感染対策を実施してきました。特に医療スタッフ間での感染拡大を防止するため、日常的なサージカルマスクや手指消毒はもちろんのこと、周囲の風通しを良くする、食事時の会話は控える、など徹底的な感染防止策を実施し、多くのスタッフの参加が必要な会議はオンラインで実施することにしました。学会や研究会も開催が当面中止されましたが、以前からCRASEED関連施設間で実施しているオンライン症例検討会(BYOC)など、オンライン会議の重要性はさらに増すこととなりました。現在、BYOCの頻度を増やし、定期的なクルズスや先端リハビリテーション研究会をオンラインで実施するなど、専門医前の先生の勉強機会を保つようにしています。

6月からは院内でも段階的に感染対策を緩和し、7月からはほぼ通常の勤務体制を再開することしました。一時的に休止されていた学生実習(ポリクリ)も再開され、徐々に以前のような忙しさや賑やかさを取り戻しつつありますが、持続的に感染者が発生している以上、油断せずに感染対策を継続していくことが重要と考えています。これからの見通しが立たず不安な日々は続きますが、お互いの社会的距離は保ちつつも心の距離が離れないように、皆でこの情勢を乗り切りたいと思います。

兵庫医科大学 内山 侑紀 先生



ISPRM2020 参加報告

アメリカ オーランドで行われたISPRM (International Society of Physical and Rehabilitation Medicine) World Congressに参加しました。2019年6月に神戸で行われたことはまだ記憶に新しいですが、今回は参加者としてゆっくり学会に参加することができました。

私は転科してきた身ですが、こちらの医局に来てからは毎年のように国際学会に参加する機会があります。今までは国際学会という敷居が高く、演題を登録するのにとっても躊躇していました。しかし当医局では国際学会に参加される先生が多く、発表準備から色々ご指導をいただき、すっかり国際学会に参加することが楽しみになりました。現地では、関連病院の先生や同大学の先生とゆっくりお話しする機会もあり、医局のコミュニケーションの場でもあると感じています。ISPRMとは、国際リハビリテーション医学

会世界会議というだけあって、世界中のリハビリテーション医療に関わる方々が参加します。ポスター発表の際は、スペインのリハビリテーション科医から質問があり、ネットワーキングイベントではマレーシアの先生達と席を共にし、他にも様々な国の先生と乾杯をし、お話をすることができました。私は英語が苦手ですが、リハビリテーション医学の話の方がうまくコミュニケーションが取れるような気がします。

リハビリテーション科は、大学の垣根どころか、国の垣根を越えて交流し、切磋琢磨することができます。参加するたびに素晴らしい出会いがありモチベーションが上がり、また来年も会いたいと思う人が増えていきます。そしていつか兵庫医科大学にも海外から多くの仲間を招くことができるよう、今後も国際交流を行っていきたいと思います。

兵庫医科大学 岩佐 沙弥 先生

CRASEED セミナー情報

全てのセミナーは、一般社団法人日本作業療法士協会の生涯教育制度 基礎ポイント対象研修会です。

2020年9月6日(日) 10:00~16:00 脳卒中予後予測セミナー

脳卒中患者さんのリハビリテーション、さあ、何から始めましょう？
まずは予後予測から始めましょう。本セミナーでは、従来の予後予測法や脳画像解析の最新知見、誰でもできるFIMを使った簡単な予後予測法、患者さんの回復過程について、明日から使える幅広い知識をお伝えします。

- 受講料：12,000円 ■会場：CIVI研修センター新大阪東
- 講師：道免 和久 先生(兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授)
小山 哲男 先生(兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 特別招聘教授)
内山 侑紀 先生(兵庫医科大学リハビリテーション科 講師)
梅田 幸嗣 先生(兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 理学療法士)

2020年9月19日(土) 10:00~16:00 リハビリテーションのためのサルコペニア講習会

現在、医療・介護の現場の主たる対象は“高齢患者(高齢対象者)”です。サルコペニアは加齢変化の中核的存在であり、予後や治療効果に大きな影響を及ぼすとされています。本セミナーでは、サルコペニアの基本的情報から実践で役立つ情報まで幅広い知識をお伝えします。

- 受講料：12,000円
- 会場：CIVI北梅田研修センター
- 講師：山田 実 先生(筑波大学 人間系 教授)

2020年9月20日(日) 10:00~16:00 実践CI療法講習会

明日からCI療法を実施できるようになる基礎知識と実践方法を伝授! 評価方法、CI療法の理論、運動学習など脳科学との関連、症例における実践例等について、わかりやすく説明します。

- 受講料：12,000円 ■会場：兵庫医科大学
- 講師：竹林 崇 先生
(大阪府立大学 地域保健学域総合 リハビリテーション学類 作業療法学専攻 教授)
天野 暁 先生(新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師)

2020年9月27日(日) 10:00~16:00 道免和久教授が伝授する「脳卒中リハビリテーションの達人になるために」

道免教授の四半世紀以上にわたる脳卒中リハビリテーションの実践経験から、診察法、評価法、予後予測、診療報酬制度、心の問題、臨床研究、脳科学とニューロリハビリテーションに至るまで、臨床に役立つ真実を伝授する独演会です。

- 受講料：12,000円
- 会場：CIVI北梅田研修センター
- 講師：道免 和久 先生(兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授)

申込方法

CRASEEDホームページ(<http://craseed.org/>)の申込フォームよりお申し込みください。ご不明点がございましたら、CRASEED事務局までお問い合わせください。E-mail:office@craseed.org
最新のセミナー情報は、Facebook・Twitter(@craseed)からもご覧いただけます。

